

刊夕日七十月五
常警日新聞

定額 一ヶ月五拾圓 三ヶ月一拾五圓 半年二拾圓 一年三拾圓
 発行所 常警日新聞社 印刷所 常警日新聞社
 電話 六二〇〇
 社址 平町二丁目

露伴の對どくろ

眞繼雲山

(一)
 佛説には正像末の三時とあり、弘法大師の遺説には高野の山は一千年と針を打ちたまへり。成るほど千年後の靈場にはケープブルカイで女人の登るは愚かなこと笑婦はびこり、陰窟さかめるさま、今にして末世なるか。

靈場のみかは、名士も富豪も大官も、表面涼しい顔して天下國家と言ふては居る者の一皮剥げば、どれもこれも金と名譽の奴隷級が大繁昌。敢へて入牢の人々に當てつけるではない。免れて恥なく、清廉顔するものこそ、宗教的に罪惡深重とはいふのである。

斯かる淺ましき世相を見ては、世に捨てられずとも世を捨てたくは必ず人間心の奥底が見え透いて仕舞うたからには社交の儀禮の、出世の、名譽のといふことに用事なし、とサッサと山へ入つて仕舞うたのが羅漢様である。

取つて、冷たい現世には餘りにも佛の慈光がアカ〜と輝き渡つてゐる。

否定は住相であり、肯定は還相である。穢土を厭離するのではなくては生死は離れ得られないが、生死を離れて仕舞うただけでは人生とは縁切れであり、肯定なき否定は同時に宗教の否定である。還相なき羅漢に人間の宗教はなきゆゑ、經には羅漢果不成佛と戒しめ給ふ。

菩薩はそれと反對に一切衆生をして生死の流れを渡し切るまでは己れ自らは渡るまじ、世を替へ生を代ふるとも、此方の岸に渡し守たらんとといふのであつて、無邊の衆生渡し難きが故に菩薩も亦永久に成佛するの日はない事となるが、その渡し守をこそ佛とはいふのである。それゆゑ菩薩こそ佛である。

ノート

葡萄酒、珈琲の汚點は下に脱脂綿を敷き汚點の部分に濡した石鹼溶液をぬり布を當て鍍を掛る。

佛道修行の階段は羅漢より菩薩に上り、菩薩より佛に成るといふのであるが、羅漢が菩薩に成るとは悟つてから他を悟らせよ、彼岸

に到りてから戻つて來いではなくして、行がそのまゝ他を救ふことであれよ、他

二明日の献立二
 【朝】みそ汁―ねぎ 豆腐
 【晝】旨煮―竹の子 椎たけ ふき
 【晚】木の芽田樂―竹の子 むきみ 油揚げ

目丁二町平
三井タシク
 番五八六話電

春のトレンドコート 7.50
 春のバアパリー 3.00
 春の正札堂特製トソビ 8.50
 春の紺セルネツミ セル外套 4.50
 春の三ツ組セビロ 7.00
 平四丁目停車場通り
正札堂
 電四三六番

耳鼻咽喉科専門
 氣管食道科
 平南町 (電話一七〇番)
大和田醫院

五月武者人形 特價大賣出し!
 毎度格別ナル御同情ニ預リ難有御禮申上マス例年ノ通り御座敷職及布鯉御道具類等一式豊富ニ取揃陳列致シマシタ御得意本位主義ニテ特價ニ差上マス。御一覺ノ程御待テ致シマス。
 平町三丁目日本通り
 落花生問屋
 叶星號 **加藤提灯店**

旭硝子株式會社製品
 赤菱印 **板ガラス**
 硝子 壺
 硝子 食器
 其他各種
松崎硝子製作所
 平町新川町(電話一四二番)
 仙臺市榮町(電話五九七番)

高野山四倉支部弘法大師臨時大祭
 四倉町牡丹觀覽團募集
 日時 五月廿一日(日曜日)
 會費 金一圓二十錢
 申込期日 五月十八日迄
 (午前十一時十八分平驛出發) (午後三時十七分平着解散)
 大護摩札呈上 折詰お酒二合瓶一本又サイダ
 申込 往復汽車賃共
 一 藤内油店 南田町 玉
 二 關内油店 新田町 初
 三 魚井食店 同 三
 四 阿部服店 胡麻山 木田
 五 三井源 佐藤寛三 益音

撰 當
 五月節句の御祝品も安く良いので!!!
 御座敷職揃 武者人形
 御座敷職揃 金太郎人形
 外 のぼり
 布 鯉
 平町四丁目
スガノヤ提灯店
 電話九五

磐城セメント會社特約店
久益屋商店
 磐城平町五丁目 電話九番九九番
 □良品廉賣に勝る商略なし
 □確實敏捷はの生命なり

外科 専門
 科線光 X
上田外科病院
 平町南町
 電話一二九番

選挙に就て注意せよ

平町役場から有権者へ

平町役場では来る卅日執行される町議選舉に際し有権者の不注意に依る種々の行違へを防ぐため近く左の如き注意書を發する事になつた

本月卅日執行の町會議員總選舉は既に告示の通り當日午前六時より午後七時迄平町會議々事堂内に於て執行するのであります、有権者には豫め入場券を配してありますから其際は此入場券を忘るゝ事なく持参して受附係に示し係員の捺印を受け名簿對照所に於いて到着番号札と引換へ其の番號札を投票用紙交附所に差出し投票用紙を受取り投票記載所に至り被選舉人一人の氏名を記載し適當に之を折り選舉長の前に在る投票箱に投入するのであります、從來動もすれば混雜の爲め投票用紙を受取らず直に到着番號札に被選舉人の氏名を記載し若くは投票を投票箱に投入せずして場外に出てんとするもの又は出口に心付かず入口に戻らんとする者等ありて場内整理に支障を來す例もあります會場内には入口出口投票記載所其他夫々標示してありますから順席して係員の指示に従ひ秩序を保ち努めて静肅完全に選舉權を行使せられん事を希望致します

平第一校で

あす遠足運動

平第二小學校にては明日全校兒童の遠足運動會を左の

如く催すが雨天の際は順延する
一年白土八幡様 二年飯野村龍門寺 三年草野村澤村神社 四年好間村上野原 五年關御井嶽 六年新舞子 高一新井田浦 高二小名濱町

候補者が無くて

村會選舉不能

上下小川村大騒ぎ

石城郡上下小川組合村では七年度匡救土木工事の村負擔金を免れる目的を以て村會の決議により幽霊人夫の傳票を作製した不正事件が遂ひに發見し村長白井菊造氏は辭職し田久兼吉氏外村會議員が此事件に關し目下平檢事局で審理中の旨既報したが来る二十八日執行される同村々會議員選舉を控

え如上の關係から立候補する者が一人もなく斯くては自治の代議機關を失ふ大事に立ち致らんとしてあるので鈴木代議士は十六日平檢事局に小林檢事を訪問詳々に事情を具し右事件に對する取調への進行と左右の決定を出来るだけ速かに取扱はれたる旨懇請した

正木磐女校長奇禍

金剛山で轉倒折骨

磐城高等女學校校長正木貞二郎氏は去る九、十の兩日に亘り京城帝大に於て開れた全國女學校長會に出席し十一日六千フィートの金剛山に登山したがあやまつて足を踏み外し頭倒右足骨折全治二週間を要する打撲傷

負ひ昨夕歸郷目下自宅に於て桑原整骨院の手に依り治療中である

商工研究会

既報平商業學校第六回商工研究会は本日午後七時より二丁目信用組合樓上に於て開催す

る筈の處都合に依り學校講堂に於て開催する事に變更した

現職最終の

平町會

二十日に召集

平町では来る廿日町會を召集し本年度匡救事業箇所選定及び是に關する豫算並に起債法其他に就いての案件を付議するが現町會最終町會である

高久養蠶協議

石城郡高久村養蠶實行組合では来る廿日午後一時より村役場に役員會を開き役員の改選を行ふ

白河高女校長

白河高等女學校長山野邊義彦氏は本日午前八時三分着にて來平磐女に於ける教育施設を視察した

磐中學期考查

磐城中學校にては来る二十九日より一齊に第一學期臨時考查を開始すると

磐中柔道部

來る大會に出場

磐城中學校及び平商業學校柔道部にては来る六月四日福商主催の下に舉行される關東北中等學校柔道大會に出場すべく目下各係教練コーチの下に練習中であるが磐中に於ける出場選手は左の如く平商にては近日中に決定すると

文也 白井晃 林武義 武藤兼一 小西信正

平町人事

回出生

△鍛冶町二八 當時東京市荒川區日暮里町三ノ一五四五 渡邊勇氏二男康夫 △五丁目一二 飯村千代氏二女洋子

回死亡

△六間門二〇 中澤シゲ(六〇) △長橋町四一 四倉利勝(三四) △古鍛冶町三五 椎名淺之介(七〇)

看護婦急派の求めに應じます

平町南町

平看護婦會

電話三〇七番

一冊の代金

御希望通りな

五冊の雑誌

自由に讀める

川崎巡回文庫

電六三〇番 次次第(規則書進呈)

是非御利用を

營業時間午後九時迄

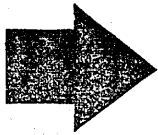


平町四丁目河岸通り 三井質店 電話六〇六番

夏の學生服

野も山も新緑です…… 輕快な霜降洋服が澤山揃ひました どうぞ御用意下さい。 小學生用……¥.40 同(特製品)……¥1.20 中學生用……¥2.05

なかや洋服店 平電 三203



平新川町十九

木村病院

電話一六四番

産婦人科 院長 木村寅次郎 電話一六四番 内臓外科 醫學士 内 木宗八 整形外科 器泌尿科

家政婦

御申込早速お手傳ひに

料金は極めて低廉です

上原家政婦會

平町紺屋町二(電呼六五二)

開花亭の藝妓秀香

病院で自殺

付添の老婆も毒を仰ぐ

失戀・病苦・悲觀？

平町田町安齋外科病院に入院中であつた新田町藝妓屋開花亭事藝チイ方抱藝妓秀香事茨城縣那珂郡湊町生れ田中チヨ(二)同び同人の付添として雇はれて居た材木町居住永山セキ(五)の兩名が昨十六日夜病室に於いて多量のモルヒネを嚥下し苦悶中看護婦に發見され應急の手術を加へたが秀香は高橋某宛の遺書を殘して今十七日午前四時絶命セキもか

三日同村齊藤庄七が從來村道として使用して居た同所宇下小埜百十番地内に家屋建設の目的でコンクリートの基礎工事を爲したのを憤慨して共同して右工事を破壊した暴力行爲事件は去る十三日關口判事及び小林檢察官が吉田書記と共に出張實地

檢證及び證人を訊問する等取調べが一段落告げたので来る二十九日午前九時より平區裁判所に於て關口判事係り小林檢察官立會眞木安藤武田各辯護士列席の下に第一回公判を開廷する事になつた

決闘事件の被告に 懲役十年求刑

けふ平支部で公判

双葉郡廣野村大字上淺見川字小松三十二番地農根本末吉(三)が去る三月十二日午後八時頃同村齊藤傳吉と些細の事から喧嘩をなし同村堤附近に於て根本が松丸太を持ち齊藤及び應援者長男重勝の兩名は竹槍を持ち互に渡り合ひ齊藤は根本の爲めに強か歐打され即死し長男重勝は之れ又重傷を負ひ翌日死亡した決闘殺人及び傷害致死事件の公判は今十七日午前十時から平支部で中島裁判長係り小林檢察官立會永野辯護士列席の上開廷

裁判長の型の如き訊問に對し被告は事實を認め正午一先づ休庭午後一時再會小林檢察官は論告の後懲役十年を求刑終つて永野辯護士の減刑論あり閉廷したが判決言渡しは来る二十四日午前九時

石城郡小名濱町字行町三十番地雜貨商大森捨吉(二)が昨年十月頃隣人阿部コトの車を奇貨とし三回に亘り衣類其他十二点價格四十五圓を窃取し入質横領したる外

暴力行爲の 實地檢證

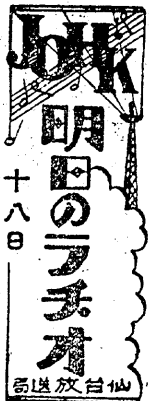
近く公判開廷

既報双葉郡木戸村矢内忠夫(三)外十三名が去る一月十

少年慘死

斷崖から落ち

石城郡江名町字中ノ作海産商滿藏四男坂部光男(一五)は去る十五日午後七時頃同字馬落前五七地内山道の掘割



明日のラジオ 十八日 氣味なる

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
お話「古今第一の横綱谷風」三原良吉
後六、二五 ことばの講座
「ことばの正しい読みかた話しかた」神保格
後七、三〇 講演「曠古の英雄豊臣秀吉を偲びて」

神宮學堂教授若山善三郎
後八、〇〇 漫談「話術」立花實
後八、二〇 哥澤 哥澤芝勢以社中
後八、三五 絃曲「望月」中平福之郎外
後九、〇〇 義太夫
後九、三〇 時報 ニュー

警中水泳軍

新メンバー決定

警城中學校水泳部にては今夏を期し同校プールに於て大會を催すべく目下計畫中であるが本年度選手は左の如く去る四月遠藤、阿部、新田目、木田、芳賀の各強豪を失つたとは云ひ鈴木部下榮冠をめぐり猛練習中で進境を大いに期待されてゐる

聖公會の小火

火鉢の不始末

石城郡湯本町字三國二六七聖公會靈拜所管理者石川徳方二階より昨十六日午後三時半頃發火したのを通行人が發見大事に至らず消止したが原因は留守番佐藤セイ(二)の火鉢の火の不始末からと判明した

老婆の家出

平署へ捜査願

石城郡好間村大字北好間字小館居住坑夫武石卯之助の母キミ(七)は去る十五日卯之助の妻ハルと些細の事から口論をなし突然行衛を晦したが秋田縣の實家へ行つたらしいと本日平署に捜査方を願出た

天刑病患者

が保護願ひ

時頃平町役場に労働者風の天刑病患者が救済を願出たが右は東京市目黒區下目黒七〇三生れ住所不定飯島政吉(三)で青森より東京市に引揚る途中平町で病氣の爲め歩行困難となつたものであると

郡下苗代の 發育順調

田植は來月上旬

石城郡下各町村農家では愈々田植と養蠶に忙殺される

氣象通報 番組預告

明日の部

前二、三〇 家庭講座
「懷石料理」栗山善四郎
後三、〇五 岡本新内 秋田土崎港町連中
後三、一五 俚語 三島町月番連中
後三、二五 俚絃 岡山縣久世町有志
後三、三〇 婦人講座「婦人は何を爲しつゝあるか」高良富子
後四、二〇 大相撲夏場所

(七日目)

後六、〇〇 郷土研究講座「東北地方の金鑛の話」佐々木喜善
後七、三〇 國際善意デー(子供の夕)國際善意デー宣言朗讀 各國民語「八種」女子放送合唱團 童話劇「海を越えて」B.K.コドモサークル
後八、三〇 小唄「九つ」夢胡佐和、胡米、胡伊久
後九、〇〇 室内樂「イン」ド組曲より」其他ジュビタークワルテット

平職業紹介所報告

- △出前持 二十前後 委細面談(平町某)
- △見守 十四才 月三圓外面談(平町某)
- △女中 三十迄 尋卒 給料面談(四倉町某旅館)
- △回職を求める方
- △女中 十八才 高女卒 給料面談(好間村某)
- △機械工 十六才 商業一修 給料面談(内郷村某)
- △洋裁教師 二十八才 高卒 給料面談(平町某)
- △電工見習 十七才 高卒 給料面談(内郷村某)

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫
上田馬之助

第三百四十號

費ひ果した二百兩
替間の文中が新三郎を揚屋町に住はせることにした

これはもと清元の太夫の居た處ですが田中に引き移つたに就いてその後を借り受け女中を一人つけ、一切の入費は文中から贈る、また新三郎の馴染の女佐野穂の染衣は吉原に祀つてある秋葉神社へ参詣すると云つては新三郎の許へ来る、かうなるとこゝへ集まる者實業家はゐない不生産的の人物ばかり、先づ第一に文中それから清元の三味線彈きの庄吉、中村新太郎といふ俳優、それに落語家で新橋これを神田の伯母さんと云ふそれは新橋は酒に酔つた状態を寫すと眞に迫る、醉かんの口詞で神田の伯母さんやレ伯母さんと唄ふそれで練名を神田の伯母さんと云ふ平の新橋の他に出入をする者は猿若町二丁目の芝居に出てる禿吉と云ふ、留場續いて一丁目の芝居に出てゐる安吉、按摩の吉田玄庵次ぎは妓でおひろにおもとおしんなどこれらが始終遊びに来て旨い物を食べお酒を飲んで騒いでゐる、新三郎は天下の通人は俺よ、他

いよ／＼放蕩は暮るばかりかうなると髪の様子から遠つて来ます、今までは房々と結び上げてゐた鬚の毛を薄くして本田と云ふ形にする、着物も紋付は野暮だと

い聲を出す、それに三味線を習ひ歌は清元や常磐津でもなからうと、一中とか河東とかまたは福島正則、片桐且元ながら賤ヶ嶽の七本槍のやう、吉原ばかりに居ては氣が屈すると多勢を連れて淺草へ遊びに行き歸りには向島へ廻る、イヤ其の放蕩振は正氣の人のすることゝは思はれない、そこで入費は文中から出す、半年あまり吉原に遊んで居た處が来る者も出る者も皆藝人ばかり終ひには藝人が鼻につきまた白粉や油の香で咽せ返る様、かうなると此



結城紬に古渡唐襷帯の幅は一寸八分、観音様のお姿の様に、茶の献上博多、度々湯に入つて磨きますから顔はテラ／＼光り眉の毛を薄くして遊ぶ暇には齒ばかり磨いてゐる、それで話の言葉尻にはゴスと云ふ語を添へるそうですなどと氣味の悪

の廓に居るは嬉しくない
新「文中、親父の許から迎ひも来ないやうだな」
文「エ、誰方もお出がございませぬ」
新「邸へ歸り度いものだな親父はどうしたかまた母は何うしたか、駕を仕立てくれ、邸へ戻るよ」

文「それはいいけません、上田様からのお話でございませぬが貴下の阿父さんは殿様に申し上げて其のお許しを受け貴下を勘當したさうでございませぬ」
新「何だ俺は勘當になつたと、それは怪しからぬ俺は親父の實子ではない、今の殿とは兄弟俺は先代の血によつて出来たものだ、して見ればよし放蕩をすればとて今の親父が俺を勘當することは出来まい」
文「處が出来ませぬ、今もお話した通り殿様からお許しを受けて一時貴下を勘當することになさいました、して見ればお邸へ歸ることは出来ませぬ、貴下の姿を見付け次第懲らしてやると腕の出来る方がお邸の御門に詰めて居るさうでございませぬ」
新「それは飛んでもない事だ、それにしても今迄俺が遊んでゐたこの入費は何處から出てゐる」
文「それは勘當になる時に涙金として阿父さんから二百兩贈つて来ました、それを私がお預り申してお道樂の入用に致して居りました」
新「さうか、まだ金はあるか」
文「一兩二分ばかり残つて居ります」
新「ウーム、そんなに費つたか」
文「左様でございませぬ、今迄に百九十八兩と二分費ひましたよ」
新「大層費つたな」

文「何うも仕方がございませぬ、後は一兩二分、とても全盛な遊びは出来ませぬよ、多勢を呼び寄せて一兩二分だけ鹽せんべえを買つてお茶でも飲みませう」
新三郎もこれを聞いて力を落した

美味！
芳醇！

宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

科人婦・科外
院醫坂井

町田町平
番九五五話電

會列陳形人月五

◎非常時日本の心意氣
尙武人形

◎品と値で常に祝品界をリードするフクダヤの名作品を御覽下さい。

- 御座敷飾セット 六圓ヨリ百五十圓迄
- 武者人形 一圓ヨリ三十圓迄
- 金太郎人形 五十錢ヨリ十八圓迄
- 五巾外のぼり 十圓ヨリ四十五圓迄
- 大鯉のぼり 二圓ヨリ四十八圓迄
- 二丁目のフクダヤ

貸切の●●●

御用命は!!!

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ……(マツサキ)

三九ニタクシーへ!!!

父康儀豫て病氣療養中の處養生不相叶十五日午後零時五十五分死去仕候に付此段生前の辱知諸彦に謹告仕候也

追て送葬の儀は十八日午後二時出棺松堂院に於て佛葬相替み可申候
昭和八年五月十五日

平町字田町一番地
加藤正保
加藤正保
親戚總代 眞木正之